

# 協会の開催案内

## マンスリーセミナー

385	6/16 (火)	放送用先端イメージング技術とその医学応用 ～超高精細8Kテレビと超高感度HARP撮像管の 技術を中心に～	一般社団法人 メディカル・イメージング・コンソーシアム  副理事長 谷岡 健吉 氏
(内容) 筆者が長年在籍した NHK 放送技術研究所には、スーパーイメージング技術とよばれる先端映像技術・撮像技術がある。超高精細 8K テレビ技術、超高感度 HARP 撮像技術、超高速 CCD 撮像技術の三つである。 本講演ではこの内、8K テレビとHARP 撮像管についての技術を概説するとともに、それらの放送以外への応用の中でも特に最近注目を集めている医学分野での活用について述べる。また、放送技術の研究成果が全くの異分野である内視鏡手術やガンの超早期発見などを目的にした医学研究にどのような経緯で応用されるようになったのか、さらには恩賜発明賞を受賞した HARP 撮像管の発明秘話についても紹介したい。			
386	7/21 (火)	デジタルコヒーレント光通信用波長可変レーザの現状と動向	住友電気工業株式会社 デバイス研究所超高速デバイス研究部 金子 俊光 氏
(内容) デジタルコヒーレント光通信における波長可変レーザの現状と今後についてまとめる。コヒーレント光通信ではレーザ光の位相と振幅とを変調する。送信情報は信号光と同じ周波数の局部光を用いて復調されるためレーザ光源には厳しい低位相雑音性能(狭線幅)が必要とされる一方、変調フォーマットの多値化に合わせて高出力動作も求められている。現在市場導入が進む DP-16QAM 方式では線幅300kHz以下、光出力16dBm以上が必要であり、今後64QAM化に向けて更なる性能向上・省電力化が期待されている。これらに対し波長可変レーザとしてどのような取組が行われているかを当社技術を中心に紹介する。			
387	8/18 (火)	AM (3Dプリンター) 技術とその市場	株式会社アспект  代表取締役社長 早野 誠治 氏
(内容) 米国オバマ大統領の 2013 年の一般教書演説で 3D プリンターとして知られるようになった AM 技術は、最近ドイツが提唱する Industry 4.0 の中でマスカスタマイゼーションを担う技術としても注目されている。講演は、まず 7 種類に分割される AM 技術の概要を解説する。そして、AM 技術のユーザーでの応用事例に関して紹介し、AM 装置を取り巻く環境や市場、AM 技術の課題についても解説する。最後に日本での AM 技術の歴史や日本政府の対応に関して解説する。 講演のアジェンダは、以下の通りである。 1. 3D プリンターって何? 2. AM 技術の応用と用途 3. AM 技術と装置の動向 4. AM 技術を取り巻く環境と市場動向 5. AM 技術を整理してみると 6. 日本の AM 技術と日本政府の政策			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3 番出口）  
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階  
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分  
定 員：60 名（申込先着順）  
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）  
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）  
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 潮田（うしおだ）  
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435  
E-mail：mly@oitda.or.jp